



東北地域の大学進学問題

東京圏に進学する生徒と地元で進学する生徒の特質の差

- 田中正弘(筑波大学)
- 渡部芳栄(岩手県立大学)
- 高森智嗣(福島大学)
- 村山詩帆(佐賀大学)
- 津多成輔(筑波大学大学院)



1. 研究の目的





研究の背景

- 東北地域の人口流出が、特に大震災以降、加速している。このままでは、東北地方は急激に衰退してしまう。
- 人口流出に歯止めを掛けるには、東北の大学の魅力が重要となる。東北の若者が地域外（主に東京圏）への定住を決意するのは、大学卒業後の就職選択時より、大学進学時が圧倒的に多い（石黒ほか 2012）ためである。





研究の目的

- そこで本発表では、人口流出が深刻な東北3県（青森・岩手・福島）を対象に、「東京圏」の大学への進学を希望する生徒と、「地元」の大学への進学を希望する生徒の間にはどのような特質の差があるのかを探求してみたい。
 - 「地元」は県内として操作的に定義する。





2. データ





データ(1)

- 分析に利用するデータは、2015年8月～10月に行った質問紙調査によって得られたものである。
- 調査対象校は、公立進学校の中から、調査への協力を快諾してくれた計15校(青森5校, 岩手4校, 福島6校)である。
- 対象者は3年生とし、悉皆調査でお願いした。
- 調査は授業中などに実施されたことから、当日欠席した生徒を除くほぼ全数の回答を得られた。





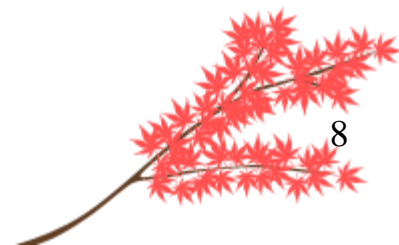
データ(2)

県名	配布数	回収数	回収率	有効票
青森	1226	1202	98.0%	1201
岩手	997	969	97.2%	969
福島	1774	1663	93.7%	1663





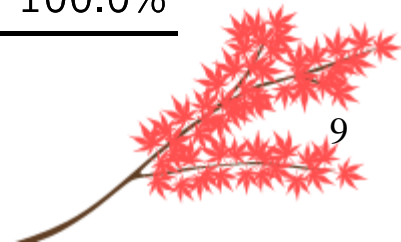
3. 進路希望の概要





卒業後の進路希望

	大学	短大	高専	専門	就職	未定	その他	合計
青森県	1144 95.3%	9 0.7%	1 0.1%	14 1.2%	26 2.2%	4 0.3%	3 0.2%	1201 100.0%
岩手県	950 98.3%	2 0.2%	1 0.1%	5 0.5%	7 0.7%	1 0.1%	0 0.0%	966 100.0%
福島県	1587 95.4%	23 1.4%	2 0.1%	35 2.1%	14 0.8%	1 0.1%	1 0.1%	1663 100.0%
合計	3681 96.1%	34 0.9%	4 0.1%	54 1.4%	47 1.2%	6 0.2%	4 0.1%	3830 100.0%

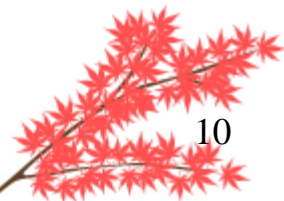




進学希望先の地域

	自県	首都圏	それ以外	合計
青森県	203 18.0%	407 36.0%	520 46.0%	1130 100.0%
岩手県	192 20.5%	234 25.0%	511 54.5%	937 100.0%
福島県	211 13.3%	708 44.8%	663 41.9%	1582 100.0%
合計	606 16.6%	1349 37.0%	1694 46.4%	3649 100.0%

注) 大学進学希望者数のみ





希望する大学の設置者

	国立	公立	私立
青森県	977 86.1%	283 24.9%	332 29.3%
岩手県	813 85.9%	361 38.1%	260 27.5%
福島県	1141 72.1%	446 28.2%	747 47.2%
合計	2931 80.0%	1090 29.7%	1339 36.5%

n = 3665 (多肢選択)

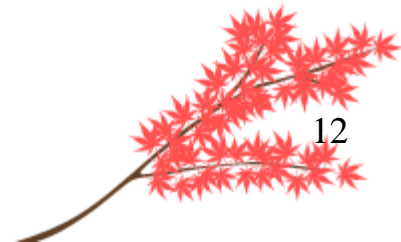




当該大学を希望する理由

□ 自分の学力レベルに合っていること

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
青森県	313 27.7%	508 45.0%	253 22.4%	54 4.8%	1128 100.0%
岩手県	225 24.0%	425 45.3%	254 27.1%	34 3.6%	938 100.0%
福島県	432 27.5%	738 46.9%	354 22.5%	48 3.1%	1572 100.0%
合計	970 26.7%	1671 45.9%	861 23.7%	136 3.7%	3638 100.0%

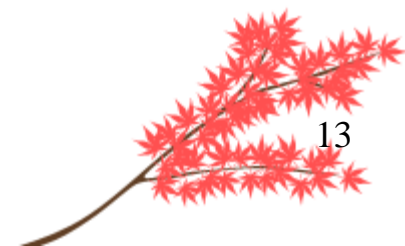




当該大学を希望する理由

□ 有名な大学であること

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
青森県	438 38.7%	394 34.8%	223 19.7%	77 6.8%	1132 100.0%
岩手県	269 28.6%	323 34.4%	264 28.1%	84 8.9%	940 100.0%
福島県	549 34.9%	637 40.5%	334 21.3%	51 3.2%	1571 100.0%
合計	1256 34.5%	1354 37.2%	821 22.5%	212 5.8%	3643 100.0%





当該大学を希望する理由

□ 学費が安いこと

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
青森県	260 23.1%	373 33.1%	342 30.3%	152 13.5%	1127 100.0%
岩手県	151 16.1%	304 32.4%	318 33.9%	165 17.6%	938 100.0%
福島県	393 25.1%	508 32.5%	486 31.1%	178 11.4%	1565 100.0%
合計	804 22.1%	1185 32.6%	1146 31.6%	495 13.6%	3630 100.0%





当該大学を希望する理由

□ 自宅から通えること

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
青森県	70 6.2%	49 4.3%	130 11.5%	880 77.9%	1129 100.0%
岩手県	79 8.4%	83 8.8%	162 17.3%	615 65.5%	939 100.0%
福島県	102 6.5%	80 5.1%	220 14.0%	1165 74.3%	1567 100.0%
合計	251 6.9%	212 5.8%	512 14.1%	2660 73.2%	3635 100.0%

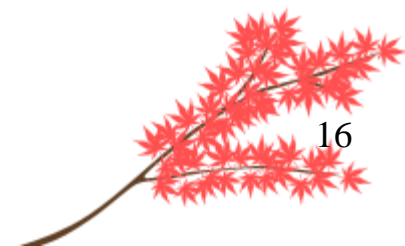




当該大学を希望する理由

□ 都会に住めること

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
青森県	251 22.3%	290 25.7%	269 23.9%	317 28.1%	1127 100.0%
岩手県	102 10.9%	212 22.6%	249 26.5%	376 40.0%	939 100.0%
福島県	299 19.1%	462 29.4%	411 26.2%	397 25.3%	1569 100.0%
合計	652 17.9%	964 26.5%	929 25.6%	1090 30.0%	3635 100.0%



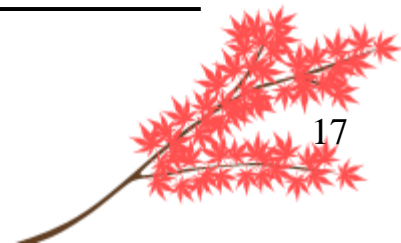


進学した場合の経済的援助

	第1因子 学業援助	第2因子 学業以外援助
大学などに納入する入学金	1.007	-0.124
大学などに納入する授業料	0.981	-0.055
教科書などの学用品を購入する費用	0.839	0.131
学友などとの交際費	-0.225	1.002
部活動やサークル活動など課外活動の費用	0.025	0.881
大学などへの通学費用	0.21	0.737
一人暮らしに必要な生活費用	0.407	0.469
因子寄与	3.65	3.379
因子寄与率 (%)	60.7	19.2

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiserの正規化を伴うプロマックス法





進学した場合の経済的援助

□ 記述統計(学業援助)

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
青森県	1121	0.079035	1.066424	0.031851	0.01654	0.1415299	-1.11981	4.27135
岩手県	933	0.087827	1.028726	0.033679	0.0217315	0.1539223	-1.11981	4.27135
福島県	1553	-0.10981	0.919795	0.02334	-0.1555954	-0.0640319	-1.11981	4.27135
合計	3607	0	1	0.01665	-0.0326453	0.0326453	-1.11981	4.27135

□ 分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	32.927	2	16.463	16.606	0.00
グループ内	3573.073	3604	0.991		
合計	3606	3606			





進学した場合の経済的援助

□ 記述統計(学業以外援助)

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間		最小値	最大値
					下限	上限		
青森県	1121	0.067784	1.020719	0.030486	0.0079672	0.1276002	-2.06286	2.83982
岩手県	933	0.081295	0.97567	0.031942	0.0186085	0.1439817	-1.70185	2.68794
福島県	1553	-0.09777	0.991506	0.02516	-0.1471191	-0.048417	-1.77386	2.83982
合計	3607	0	1	0.01665	-0.0326453	0.0326453	-2.06286	2.83982

□ 分散分析

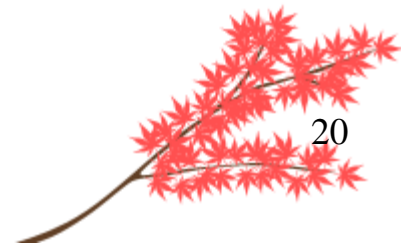
	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	26.161	2	13.081	13.169	0.00
グループ内	3579.839	3604	0.993		
合計	3606	3606			





学校での成績

	上の方	やや上の方	真ん中のあたり	やや下の方	下の方	合計
青森県	96 8.7%	249 22.5%	376 34.0%	180 16.3%	205 18.5%	1106 100.0%
岩手県	60 6.5%	211 22.8%	320 34.6%	171 18.5%	163 17.6%	925 100.0%
福島県	134 8.6%	341 22.0%	582 37.5%	266 17.2%	228 14.7%	1551 100.0%
合計	290 8.1%	801 22.4%	1278 35.7%	617 17.2%	596 16.6%	3582 100.0%





学校での成績

記述統計

	度数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の 95% 信頼区間	
					下限	上限
青森県	1106	3.13	1.208	0.036	3.06	3.21
岩手県	925	3.18	1.16	0.038	3.1	3.25
福島県	1551	3.07	1.149	0.029	3.02	3.13
合計	3582	3.12	1.171	0.02	3.08	3.16

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
グループ間	6.956	2	3.478	2.538	0.079
グループ内	4903.904	3579	1.37		
合計	4910.86	3581			





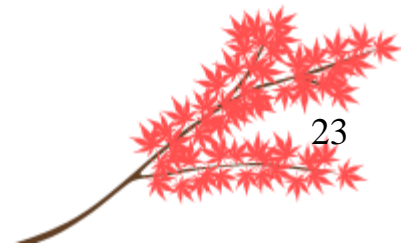
小括

- 県別で概括的に見ると…
 - 卒業後の進路希望は9割以上が大学。
 - 進学希望先地域は自県よりも東京圏の割合が高い。
 - 全体的に国立志向が強い。他方、福島では私立志向もやや強い。
 - 当該大学の希望理由について、「自宅から通えること」は重視されていない。
 - 進学した場合の経済的援助は、学業援助については期待できると認識している。
 - 経済的援助について、学業援助・学業以外援助ともに、青森と福島、岩手と福島の間に有意差が見られた($p < 0.01$)。
 - 学校での成績については、分散分析の結果、有意差は見られなかった。





4. 地元進学希望への影響に関する 探索的分析





前節を踏まえての検証課題

- 進学先を目的変数, 次のものを説明変数と考える。
 - 性別
 - 進学先の設置者
 - 進学先の分野
 - 学力レベル
 - 有名大学
 - 学費
 - 経済援助の見通し
 - 地元志向(将来自県に住みたいと思っている)
 - 学校内成績(自己評価)
 - (自宅通学・都会居住は統制変数)





分析の単位

- 別添資料1によると
 - 進学希望先の比率が同じ県内でも異なる。
 - 要因として仮定する変数(性別, 設置者, 分野(芸体・その他は多くはない), 希望理由, 地元志向, 金銭援助)で学校間の差が見られる。
- 学校別分析を行いつつ, 県別分析・3県全体分析の結果との比較





目的変数との連関

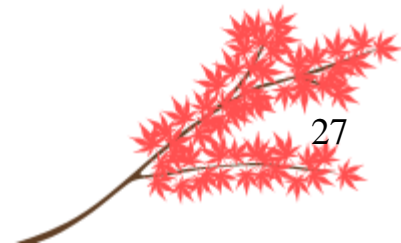
	青森県					岩手県				福島県					
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
自宅 (F)	76.8	207.9	1.858	10.65	0.312	159	93.47	13.44	44.67	12.87	16.88	39.74	127.9	2.469	11.99
都会 (F)	61.33	51.7	29.52	28.62	52.14	37.97	47.39	25.79	28.38	31.06	20.43	36.94	47.66	52.97	64.3
性別 (V)	0.081	0.226	0.152	0.041	0.204	0.129	0.109	0.148	0.067	0.119	0.026	0.14	0.115	0.096	0.053
国立 (V)	0.2	0.185	0.116	0.183	0.279	0.155	0.152	0.201	0.202	0.308	0.358	0.16	0.119	0.309	0.409
公立 (V)	0.122	0.242	0.097	0.145	0.252	0.144	0.153	0.111	0.135	0.216	0.268	0.292	0.094	0.269	0.273
私立 (V)	0.19	0.242	0.134	0.197	0.156	0.064	0.229	0.256	0.269	0.228	0.394	0.157	0.159	0.227	0.38
人文 (V)	0.146	0.239	0.177	0.167	0.073	0.152	0.016	0.163	0.074	0.109	0.013	0.107	0.091	0.142	0.081
教育 (V)	0.188	0.048	0.16	0.091	0.196	0.212	0.189	0.238	0.075	0.1	0.126	0.054	0.096	0.085	0.196
社会 (V)	0.143	0.197	0.23	0.253	0.088	0.294	0.05	0.246	0.061	0.131	0.123	0.213	0.135	0.272	0.189
理工農 (V)	0.15	0.292	0.221	0.145	0.05	0.169	0.075	0.091	0.092	0.267	0.131	0.164	0.18	0.152	0.108
医保 (V)	0.491	0.434	0.388	0.293	0.161	0.233	0.139	0.238	0.048	0.23	0.13	0.329	0.151	0.463	0.063
学力 (F)	5.148	2.653	0.229	3.568	5.044	8.322	0.39	1.95	1.293	1.762	1.898	1.208	0.576	1.419	0.693
有名 (F)	10.47	37.68	4.699	5.135	0.261	10.13	9.094	9.027	6.771	5.598	1.404	6.8	11.17	2.816	12.44
低学費 (F)	3.231	4.101	2.394	2.659	3.455	1.662	0.024	4.469	9.889	9.721	11.39	4.912	8.975	14.22	24.19
地元志向 (V)	0.395	0.4	0.412	0.4	0.517	0.406	0.414	0.322	0.329	0.281	0.402	0.316	0.322	0.332	0.271
学業援助 (F)	0.047	3.933	0.193	0.207	1.182	0.129	0.874	0.064	1.216	0.305	0.816	0.019	0.809	0.065	0.782
非学業援助 (F)	4.509	1.554	2.812	2.076	2.39	1.295	2.966	0.505	0.029	1.497	0.302	3.113	2.017	1.016	0.03
成績 (F)	2.991	0.799	1.287	3.265	0.808	13.1	4.385	6.144	0.128	1.252	0.71	0.378	4.311	0.486	0.071





分析方法

- 目的変数：1=自県，2=東京圏，3=その他
→多項ロジスティック回帰分析
(参照カテゴリー=「その他」)
- 統制変数：希望理由のうち自宅通学，都会居住
– 1=全く～5=よく(逆転)





分析方法

- 説明変数：疑似相関（無相関）の可能性も考慮し、前述の全ての変数を投入
 - 性別：0=男 1=女
 - 設置者（国立・公立・私立）：0=非該当 1=該当
 - 分野（人文・教育・社会・理工農・医保）：0=非該当 1=該当
 - 希望理由（学カレベル・有名大学・低学費）：1=全く～5=よく（逆転）
 - 成績：1=下の方～5=上の方（逆転）
 - 学業援助・非学業援助：（逆転の上）主成分得点
 - 地元志向：0=非自県，1=自県





分析方法修正点

- ただし、以下の点を修正した。
 - 変数間の相関が大きいものは除外
 - 国立との相関が大きい私立を除外した。
 - 学校別に見た場合、分析上の問題(度数が0)が生じたため、
 - 分野を文系と理系に統合したが、相関が大きいため、
 - 文系のみ残した。





分析結果①【別添資料2】

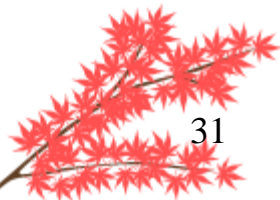
- 性別によって影響があるのは4校(影響は様々)。
- 国立進学を目指す場合, 東京圏よりその他になるのが8校。
- 公立進学を目指す場合, その他より自県になるのが3校。
- 文系を目指す場合, 自県を抑制したり, 東京圏に行きやすくなるのが9校。逆(同時)に自県になるのも3校。
- 自分の学力にあってるからという理由で自県に残る学校が青森県で2校, 東京圏を目指す但し学力にあっているからではない学校が他に1校(解釈が難しい)。





分析結果②【別添資料2】

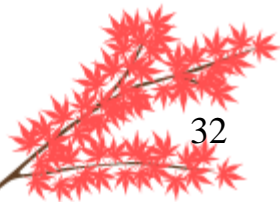
- 地元に残っても有名大学だからというわけではない学校が6校。
- 低学費だから自県に残りやすい学校も1校(J)あるが、学費に関わらず東京圏を目指しやすい学校が6校。
- 成績の高低が進学先に影響するのは2校のみ(影響は両方)。
- 学業援助, 非学業援助については様々(解釈が難しい)。
- 地元志向が高いと, 自県に残りやすい学校は多い(東京圏に行きにくくなるのも含む)。





参考分析

- 3県全体【別添資料3上】
 - 概ね学校ごとの分析と整合的
- 県別分析【別添資料3下】
 - 県ごとの独自性もある。
 - 青森:性別
 - 岩手:文系, 成績
 - 福島:国立, 地元志向





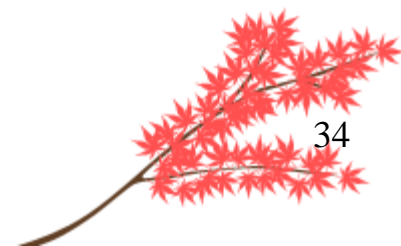
小括と課題

- 学校ごとに自県進学・東京圏進学・その他進学を促す要因が異なるが、多くで共通したのは
 - 将来地元に住みたいと考えている子は、地元の大学を選ぶ。
 - 文系学部に進みたいと考えている子は、東京圏の大学を選ぶ。
- 非東京圏という意味での国公立の重要性
- 統制変数にした自宅通学志向や都会居住志向や、地元志向そのものの要因が不明





5. 高校教員の意見





高校教員の意見(1)

- 2016年7月に、調査に協力してくれた一部の高校の教員を対象に訪問調査を行い、進路指導への教員側の意見を集めた。
 - ほぼ全ての教員が述べられた意見に、「国立大学に進学してほしい」という強い期待がある。
 - この期待は、保護者や地域社会の公立進学校への期待を反映したものと見える。あるいは、国立大学に何名進学したかで高校の評価が下されるという、東北地域に根強い文化も垣間見える。





高校教員の意見(2)

- 国公立大学への進学志向が強いことは、一つの問題もはらんでいるという興味深い意見も伺えた。
- その問題とは、理系クラスの進路選択が本人の適性を度外視して行われる傾向のことである。
 - 事実、訪問先の高校では理系クラスが多くなっており、数Ⅲや物理の指導に困難が生じているとのことである。





6. まとめ





まとめ

- 対象校では，性別や金銭面それ自体に差は見られない。一方で，進学先を規定する特質や社会的要因として，「地元志向」と「文系」が特に強いことを指摘できる。
- 特質である「地元志向」のメカニズムは，今回の分析では解明できなかったが，社会的要因である「文系」は，政策的含意を持つ。
- つまり，国立大学の文系削減は，地方創生の流れからいって危険であること，およびそれが地元民の意識とも相まって，高校生に悪影響を及ぼすかもしれないことが今回のアンケート・訪問調査から明らかになった。





ご清聴ありがとうございました。

本発表は、挑戦的萌芽研究(H27-28)「東北地域の大学進学問題—教育社会学と比較教育学の研究手法の融合—」(研究代表:田中正弘)の助成を受けて実施した研究成果の一部である。

